

害虫カラマツヤツバキクイムシの発生量を監視する技術の開発

～近年、被害が深刻なカラマツの害虫枯死被害拡大を防ぐために～



背景

- ・カラマツヤツバキクイムシはカラマツを枯らす害虫です。
- ・被害拡大を防ぐためには、発生量の監視（モニタリング）が必要です。
- ・費用のかかるモニタリングを、安価に実施する技術が求められています。

成果

・フェロモンの構成比・使用量の見直しによる 低コストフェロモンバッグの開発

| | 従来 | 改良 | |
|-----|----------------------|------|------|
| 構成比 | フェロモンA (イブスジエノール) | 1.1 | 1.0 |
| | フェロモンB (イブセノール) | 5.5 | 1.0 |
| | 溶媒 | 93.4 | 98.0 |
| 価格比 | 100 | 59 | |

4割の
コスト減

● 改良フェロモンバッグの特徴

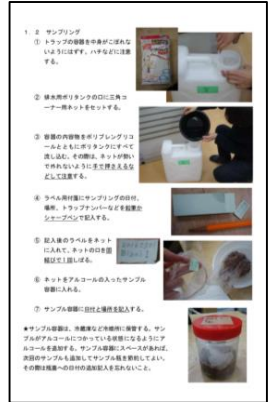
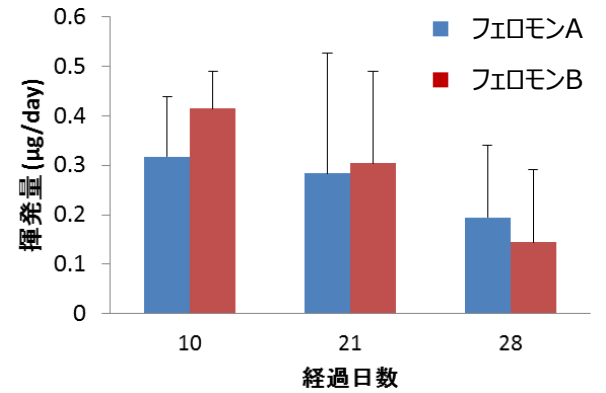
- ① モニタリングに適した捕獲ができる
- ② 従来型のトラップと同じ期間、誘因効果が続き、同じ労力で実施できる



活用

■低濃度フェロモンバッグを用いる「モニタリング手順書」を作成
→北海道水産林務部の被害モニタリング事業(H28～)など現場で活用されています。

・野外での誘因効果が持続することを確認



カラマツヤツバキクイムシ
モニタリング手順書



モニタリングの実施
(陸別町)